

# 池状遺構

寺院跡の東側で発見された池状遺構は、南東側が未調査ですが、東西は約70m、南北は40m程と推定されます。寺院跡の平坦面から池底までの比高差は約5mほどあります。池の底面は、西側から東側に向かって緩やかに下がっているため、その比高差は約3.5mほどでした。

池状遺構の東側には、細長い谷を堰き止めている堰堤（えんてい）が発見されました。この堰堤は、黄褐色ローム土と暗褐色土を交互に積みながら、間に葦や小枝を敷き込んでいて、さらに杭を打ち込んだり、細長い枝を埋め込んで補強されていました。

池状遺構や堰堤の下部から渥美窯や常滑窯の甕の破片、かわらけ、鉄鏃、木製品、骨角製品が出土しました。



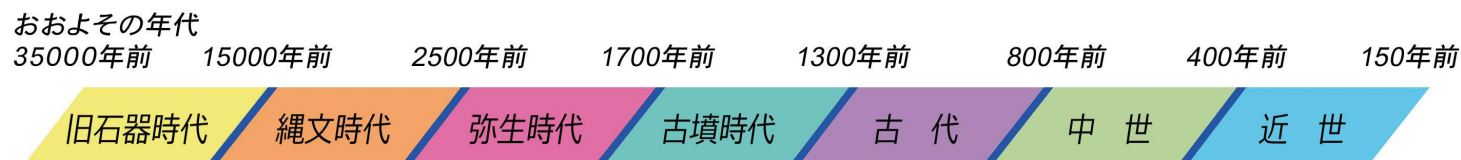
寺院跡前面の池状遺構



北側の調査区で検出された池状遺構



杭や枝で補強された堰堤



※報告している内容はまだ調査中のものですので、今後の調査の進展により変更になる場合があります。



平成 28 年度新東名高速道路建設事業に伴う  
伊勢原市域子易地区埋蔵文化財発掘調査  
**子易・中川原遺跡見学会資料**  
2016 (平成 28) 年 6 月 25 日  
主催 公益財団法人かながわ考古学財団  
共催 伊勢原市教育委員会  
〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1  
Tel.045-252-8689 <http://kaf.or.jp>



「地域の特色ある  
埋蔵文化財活用事業」



# こやす なかがわら 子易・中川原遺跡

主催 公益財団法人かながわ考古学財団  
共催 伊勢原市教育委員会

## 中世の寺院跡を発見

伊勢原市子易に所在する子易・中川原遺跡は、中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設に先立ち2012 (平成24) 年度から発掘調査を実施しています。

これまでの調査で、縄文時代から近世までの各時代にわたる遺構・遺物が発見されました。

昨年度から調査を実施している調査区において、中世(鎌倉時代から室町時代)と考えられる寺院跡が発見されています。本調査区は、2014 (平成26) 年度に池状遺構や呪符木簡(じゅふもっかん)が発見された地区の西側にあたり、丘陵裾の谷奥に立地しています。

寺院跡は池状遺構の西側縁辺にあり、谷奥の斜面を削った、標高127mほどの平坦面上に造営されています。この場所は、明治時代に廃寺となった『安楽寺』があった所で、上層から近世の階段や石垣、石塔などが確認されています。

大山周辺の仏教関係遺跡として、貴重な調査事例ですので、これらの最新の調査成果を紹介いたします。

